

日刊 動労千葉

86. 1. 13
No. 2138

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二七二〇七

意気高く 団結旗をひきよせ

動労千葉は一月十一日、労働者福祉センターに組合員・家族を中心に、来賓、支援の労働者、学生五二〇名を結集して「団結旗開き」を開催し、第一波11・28/29ストにひきつづく第二波・第三波闘争への決起で、分割・民営化一十万人首切り攻撃を粉碎し、中曽根内閣を打倒し、勝利をもぎとる戦闘宣言を発した。

「歴史を拓く闘いに連帯」

各界から連帯、教団挨拶、会場あふれんばかりの大結集をもって十三時、片岡執行委員が開会を宣言、第一部がはじまった。

主催者を代表してあいさつにたった水野副委員長は「11・28/29ストの成果に自信と確信をもち、三月ダイ改闘争に決する突入宣言の場として、本日の旗開きをかちとろう」と提起した。

つづいて、来賓の社会党・新村勝雄衆議院議員から「皆さんの闘いは歴史を切り拓く英雄的闘いにあり、これに連帯、支援し、共に闘いぬく」と



新村勝雄衆議院議員



松本県会議員

のあいさつを受け、松本正二県会議員からも連帯のあいさつをうけた。

「中野波決起で勝利へ」

第一部のメインは、中野委員長長の基調講演だ。

満場の拍手の中、登壇した中野委員長は、冒頭、八六年が国鉄労働者のみならず、すべての労働者にとって決戦の年であると規定したうえで、11・28/29ストでかちとった巨大な意義について、四点にわたって提起した。

すなわち、第一は、国鉄労働運動史上空前の大弾圧体制の中で11・28/29ストを貫徹したこと。第二は、動労「本部」革マルの裏切りと敵の先兵化、国労中央一部指導部の屈服という否定的状況のも

切迫する不当処分攻撃に 断固たる反撃を!

★不当処分が強行されたら、直ちに職場抗議行動

翌日(土、日の場合)17時半

千葉軌に全力集結 局への抗議デモ

千鉄弾劾抗議闘争

何のたための金網新設工事!?

1月13日までに、千葉鉄道管理局は周囲をスッポリと金網で囲まれた。

何ダ?



中野委員長は、以上の四点について鮮明にしたうえで、勝利にむけて闘う方針を提起した。

とで、動労千葉の闘いが国鉄労働者の総反撃の突破口を切り拓いたこと。第三は、敵が、われわれの反応をみながら攻撃を出さざるをえない状況においこむという関係にもちこんだこと。第四に、戦後政治の総決算にむけ、八五年基盤づくり一八六年総仕上げを目論む中曽根のプランをぶち破り、八六年をむかえることに成功したこと、である。

中野委員長は、戦争国家づくりの軸が国鉄であるものの中曽根の攻撃はぜい弱、余裕のないものであるとし、答申のデータラメ性をつき、勝てる展望を明らかにした。

すなわち、三月ダイ改を処分粉碎の闘いと結合した業務移管・線見阻止闘争として、国労共闘を追求しつつ、決定的段階ではストで闘うこと。そして、全国組織への飛躍をなしとげることをとおして分割・民営化を粉碎し、中曽根を打倒しよう、と結んだ。

全参加者は、中野委員長長の提起に万雷の拍手で応え、第二波闘争への決意を打ち固めた。

(次号つづく)



「第一波の勝利からいざ第二波へ!」520名を結集して戦闘的に出陣式

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!